

令和 6 年度 鳥取市地域内フィーダー系統確保維持事業の事業評価について

鳥取市地域内フィーダー系統確保維持計画に基づいて実施された「鳥取市地域内フィーダー系統確保維持事業」について、事業評価を行うものです。

① 地域内フィーダー系統確保維持事業とは

生活交通の確保・維持・改善のため、バス路線を幹線（路線バス等）と支線（乗合タクシー等）に再編するなど、地域の特性・実情に応じた最適な移動手段を提供するための事業です。

この事業により再編された支線部分の系統をフィーダー系統と言い、計画に基づいて運行される公共交通には、運行経費の一部として国から補助金が交付されますので、毎年計画を策定し、国へ申請を行っています。事業実施後の事業評価は、生活交通会議で協議が調っている必要があります。

② 運行路線（2 路線 3 系統）**（1）米里線（予約型） 2 系統**

経 緯：路線バス「米里越路線」が平成 21 年 9 月に廃止。

運行事業者：日本交通株式会社

便 数：平日・土日祝 上り 7 便 下り 10 便

（2）雨滝上地線（区域型）

経 緯：路線バス「中河原線」の一部が平成 28 年 3 月に廃止。

運行事業者：日ノ丸ハイヤー株式会社

便 数：平日 36 便、土日祝 30 便

※区域型：バス停ではない場所で乗降でき、利用者のニーズに対してある程度柔軟な対応が可能。

③ 目標・効果**（1） 目標**

年間利用者数の目標値については、人口減少・高齢化、都市部への人口流出等によるバス利用者の減少を加味し、直近実績の維持を目標として設定しています。

（2） 効果

市・運行事業者・地域住民が一体となって目標達成に取り組むことで、地域住民自らの手で交通手段を確保するという機運の醸成、高齢者の外出機会の創出による健康増進、都市部への人口流失抑制による地域の活性化等に効果が期待できます。

④ 評価基準

(1) 事業実施の適切性

生活交通確保維持改善計画に基づく事業が適切に実施されたかを、A,B,C の3段階で評価します。計画どおり実施されなかった場合には、理由等を明らかにします。

A：事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された

B：事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった

C：事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった

(2) 目標・効果達成状況

生活交通確保維持改善計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、設定した目標ごとに A,B,C の3段階で評価します。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上明らかにします。

A：事業が計画に位置付けられた目標・効果を達成した（する見込み）

B：事業が計画に位置付けられた目標・効果を達成できていない点があった（一部達成できない見込み）

C：事業が計画に位置付けられた目標・効果を達成できなかった（達成できない見込み）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月10日

協議会名:鳥取市生活交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

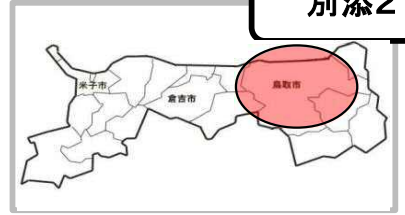
①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
日本交通株式会社	米里線	(R5二次評価結果) ・目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A (目標) 目標60人に対し実績70人であり、目標を上回った。 (効果) 令和5年4月より地元の診療所及び学校を経由する路線に変更した。地域住民の広域移動を可能とする交通手段となっており、特に1月・2月の冬場の利用が伸びた。	令和5年4月からの路線変更の影響を検証しながら、今後も地元及び事業者と協議を重ねて利用促進に努める。
日ノ丸ハイヤー株式会社	雨滝・上地線	(反映状況) ・適宜、地域と利用状況を共有するとともに、事業者と利用促進及び運行内容の見直し等について意見交換した。		B (目標) 目標4,968人に対し実績は3,131人であり、目標を下回った。 (効果) 区域運行を行うフィーダー系路線として、幹線交通へのアクセスを重視したダイヤを設定しており、通学を中心とした地域住民の交通手段となっている。	利用者数は前年度に続き減少したが、通学を中心に地域住民の交通手段として確立されている。 今後も引続きダイヤ改善や路線延長等の要望事項について、地元・事業者等と検討を続ける。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月10日

協議会名：	鳥取市生活交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>鳥取市は平成16年に1市8町村が合併した鳥取県東部の中心都市であり、面積は765.31km²、人口は188,465人(令和2年国勢調査)である。</p> <p>鳥取市における主要な公共交通機関であるバス交通は、日常生活を営む上で必要不可欠な移動手段であり、地域生活を支える根幹的な基盤である。今後、さらに高齢化が進むと予想される中、地域生活の持続的発展のためには健全な地域公共交通の確保が求められる。</p> <p>しかし、人口減少やマイカーの普及に伴うバス利用者の減少や深刻な乗務員不足により、バス路線の廃止・縮小が進行している。米里線については平成21年9月、中河原線については一部区間(雨滝・上地地区)の運行が、平成28年3月をもって廃止されたため、交通手段を確保する必要があった。そこで、地域公共交通確保維持改善事業により乗合タクシーを運行することで、上記地区における住民の生活交通手段を確保していく。</p>

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 鳥取市生活交通会議 生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)の概要



鳥取市の概要

- ・平成16年11月に1市8町が合併
- ・人口 188,465人(令和2年度国勢調査)
- ・面積 765.31km²

鳥取市生活交通会議の構成員

学識経験者、住民代表、事業者、事業者団体、事業者労働組合、鳥取県、鳥取市、鳥取運輸支局、警察署、道路管理者

概 要

鳥取市における主要な公共交通機関であるバス交通は、日常生活を営む上で必要不可欠な移動手段であり、地域生活を支える根幹的な基盤である。今後、さらに高齢化が進むと予想される中、地域生活の持続的発展のためには健全な地域公共交通の確保が求められる。

しかし、人口減少やマイカーの普及に伴うバス利用者の減少や深刻な乗務員不足により、バス路線の廃止・縮小が進行している。米里線については平成21年9月、中河原線については一部区間(雨滝・上地地区)の運行が、平成28年3月をもって廃止されたため、交通手段を確保する必要があった。そこで、地域公共交通確保維持改善事業により乗合タクシーを運行することで、上記地区における住民の生活交通手段を確保している。

会議の主な取り組み

下記の事項について協議。

- ・路線バス等の廃止・縮小に伴う代替手段に関する事
- ・交通空白地域におけるフィーダー交通に関する事
- ・生活交通創生ビジョンに関する事
- ・地域の実情に応じた適切な乗合旅客運送の態様及び運賃、料金等に関する事
- ・自家用有償旅客運送の必要性及び旅客から収受する対価に関する事
- ・地域公共交通計画に位置づけられた事業の実施に関する事
- ・鳥取市生活交通会議の運営に関する事

会議における検討

年6回程度開催(本事業に係るものは下記)

- 令和4年6月28日
 - ・地域内フィーダー系統確保維持計画について(令和5～7年度)
- 令和4年12月
 - ・令和4年度事業評価について
- 令和5年2月10日
 - ・地域内フィーダー系統確保維持計画変更について
- 令和5年6月27日
 - ・地域内フィーダー系統確保維持計画について(令和6～8年度)
- 令和6年1月26日
 - ・令和5年度事業評価について
- 令和6年5月21日
 - ・地域内フィーダー系統確保維持計画について(令和7～9年度)
- 令和7年1月10日
 - ・令和6年度事業評価について

鳥取市生活交通会議 事業の評価

定量的な目標・効果

路線不定期運行(予約型)2系統、区域運行(予約型)1系統

(目標)

本乗合タクシー導入地域の人口減少率は高く、少子化の影響等によりその状況は加速するものと想定されるため、目標は、乗合タクシーの前年度利用者数を参考に現状維持とした。

・年間利用者数の目標値: 米里線60人以上、雨滝・上地線4,968人以上

(効果)

市・運行事業者・地域住民が一体となって目標達成に取り組むことで、地域住民自らの手で交通手段を確保するという気運の醸成、高齢者の外出機会の創出による健康増進、都市部への人口流出抑制により地域の活性化等に効果が得られた。

昨年度の自己評価に対するフォローアップ

適宜、地元の自治会役員等を通じて地域と利用状況を共有し、事業者と利用促進及び運行内容の見直し等について協議した。

実施した利用促進策

- ・利用状況・ニーズ等の把握
- ・路線バスとの接続に係るダイヤ確認
- ・時刻表・運賃・運行ルート等を市HPへ掲載。

昨年度の運輸局二次評価に対するフォローアップ

地域に適した交通手段について事業者と利用促進及び運行内容の見直し等について協議し、利用者は多くないものの欠かせない交通手段であることを確認するとともに、地域の実状に合った交通手段の検討の必要性も確認。

今後も利用者のニーズ把握に努め、より利便性の高いものとなるよう取組を続けるとともに、新たな交通手段の検討も進める。

地域住民の意見の反映

平成30年10月19日

タクシー事業者との意見交換会

令和元年5月

国府地域からの要望を受け、増便について検討

令和元年9月24日

バス・タクシー事業者との意見交換会

令和2年～随時

米里地区及び運行事業者との意見交換・ルート時刻の変更協議

事業実施の適切性

- ・米里線 : 計画どおり実施されている。
- ・雨滝上地線: 計画どおり実施されている。
- ・本乗合タクシーの運行は、地域の需要に見合った車両サイズで、一定のサービス水準を維持している。さらに、デマンド運行とすることにより費用の削減が可能となり、持続可能な運行形態で地域生活交通を確保している。

目標・効果達成状況

(目標)

・米里線

目標60人に対し実績70人であり目標を上回った。

・雨滝上地線

目標4,968人に対し実績は3,131人であり目標を下回った。

(効果)

米里線については令和5年4月より地元診療所及び学校を経由する路線に変更したため学生等の交通手段となっている。

フィーダー系路線として、幹線交通へのアクセスを重視したダイヤを設定しており、地域住民の広域移動を可能とする交通手段となっている。

事業の今後の改善点

(改善点)

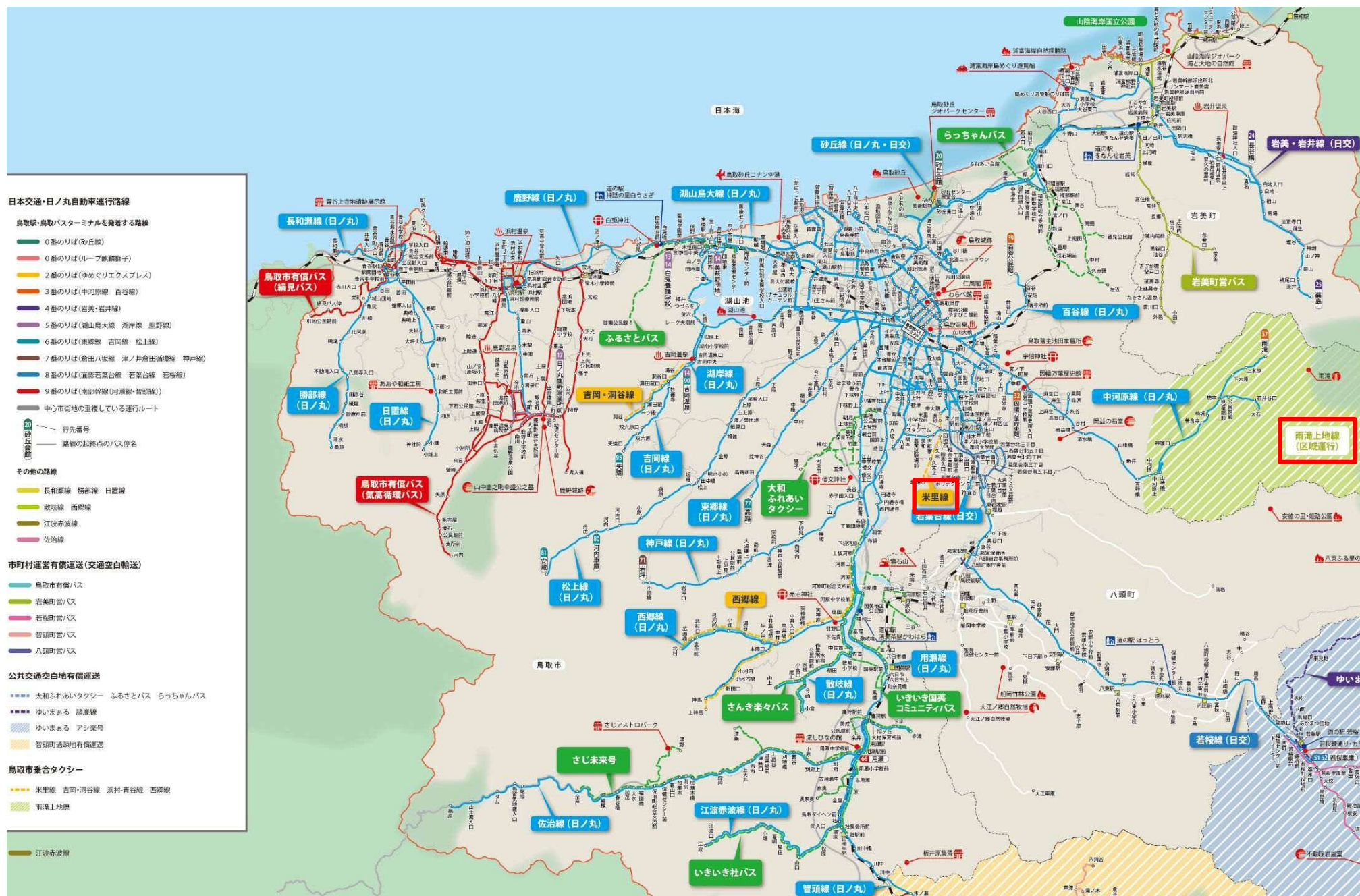
・米里線

令和5年4月からの路線変更の影響を検証し、適宜、運行内容の見直しについて検討する。今後も地元及び事業者と連携して利用促進に努める。

・雨滝上地線

利用者数は前年度に続き減少したが、通学を中心に地域住民の交通手段として確立されている。今後も引続きダイヤ改善や路線延長等の要望事項について、地元・事業者等と検討を続ける。

交通体系図 別紙



運行系統図 別紙

系統名 米里線
 運行形態 4条路線、路線不定期運行(予約型)
 運行日 1月1日・2日以外毎日運行
 便数 上り 7便
 下り 10便
 運賃 上限220円

米里線



運行系統図 別紙

系統名 雨滝・上地線

運行形態 4条路線、区域運行(予約型)

運行日・便数 12月31日～1月3日以外毎日運行、平日36便、土日祝30便

運賃 上限200円

